

令和2年度 (情報公開)

令和元年度財務の概要について

学校法人武田学園

(1) 学校法人会計と企業会計との違いについて

企業会計では「損益計算書」「貸借対照表」および「キャッシュフロー計算書」が作成されます。企業では営業成績を損益計算書によりあらわし、単年度の事業状況を明確化し、経営成績を知ることで収益を高めることに役立てます。

一方、学校法人会計では、学校法人会計基準により定められた会計処理を行い、「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」および「貸借対照表」等の計算書類を作成します。

各計算書の内容は以下のとおりで、これらを分析することにより、学校法人の財政および経営の状況が把握できます。

◆資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、支払資金（現金預金）の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

◆事業活動収支計算書

当該年度の教育・研究その他の諸活動を「教育」、「教育外」、「特別」の3つの活動に区分し、区分ごとの収支内容ならびに基本金組入額を含めた収支の均衡状態を明らかにするものです。

◆貸借対照表

年度末における資産・負債・基本金および収支差額（純資産）の財政状況を示し、当年度末と前年度末と対比して記載するものです。

学校法人は営利を目的としていないため、長期的にみて財政が健全に維持されているかどうか、教育研究施設設備が適切に充実されているか、等という観点から財務資料を分析し、改善方を追求することが目的となります。

(2) 財務運営の状況について

次頁より、本学の財務運営の状況について、会計基準での財務3表の状況、並びに財務比率表の経年推移（グラフ）を記載します。そして、最後に学園の決算概要を掲載しています。

財務運営の状況

1-1. 資金収支の状況

(単位:千円)

科 目		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,686,759	1,637,829	1,542,916	1,551,635	1,682,825
	手数料収入	27,131	25,176	26,169	36,856	40,696
	寄付金収入	1,736	1,113	3,066	878	1,544
	補助金収入	520,858	599,127	399,078	799,896	413,537
	資産売却収入	0	0	0	0	2,638
	付随事業・収益事業収入	147,692	138,253	144,364	162,519	160,574
	受取利息・配当金収入	6,768	6,518	5,567	3,787	4,315
	雑収入	59,090	98,942	78,507	32,785	27,745
	借入金等収入	0	0	200,000	964,000	0
	前受金収入	451,412	390,113	430,164	511,663	550,385
	その他の収入	95,889	92,688	198,982	38,295	424,095
	資金収入調整勘定	△ 580,462	△ 646,291	△ 428,116	△ 852,470	△ 576,361
	前年度繰越支払資金	2,327,856	2,581,089	2,414,992	2,857,397	2,208,694
合 計	4,744,729	4,924,557	5,015,689	6,107,241	4,940,686	
支出の部	人件費支出	1,479,751	1,495,432	1,471,604	1,340,740	1,368,256
	教育研究経費支出	362,262	340,753	314,695	425,300	447,741
	管理経費支出	254,945	263,218	254,428	400,169	368,761
	借入金等利息支出	2,078	1,899	1,421	950	5,966
	借入金等返済支出	10,020	10,020	122,345	10,020	10,855
	施設関係支出	19,997	318,701	43,106	1,426,249	193,190
	設備関係支出	58,451	23,326	21,959	178,805	116,243
	資産運用支出	514	513	2,510	5,782	84,737
	その他の支出	32,245	93,820	52,868	146,764	1,093,058
	資金支出調整勘定	△ 56,623	△ 38,115	△ 126,644	△ 36,232	△ 53,846
	翌年度繰越支払資金	2,581,089	2,414,992	2,857,397	2,208,694	1,305,723
	合 計	4,744,729	4,924,559	5,015,689	6,107,241	4,940,686

※百円の位を四捨五入し、千円単位で記入しています。(以下、同じ)

1-2. 活動区分資金収支の状況

(単位:千円)

科 目		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,686,759	1,637,829	1,542,916	1,551,635	1,682,825
		手数料収入	27,131	25,176	26,169	36,856	40,696
		特別寄付金収入	1,398	690	2,660	560	1,223
		一般寄付金収入	338	423	406	318	321
		経常費等補助金収入	465,014	456,947	399,078	394,201	373,905
		付随事業収入	147,692	138,253	144,364	162,519	160,574
		雑収入	56,369	98,942	78,403	32,715	27,728
		上記以外の収入	0	1	0	1	0
		教育活動資金収入計 (A)	2,384,701	2,358,261	2,193,996	2,178,805	2,287,272
	支出	人件費支出	1,479,750	1,495,432	1,471,604	1,340,740	1,368,256
		教育研究経費支出	362,262	340,753	314,695	425,300	447,741
		管理経費支出	254,812	263,218	253,691	400,169	368,761
		教育活動資金支出計	2,096,824	2,099,403	2,039,990	2,166,209	2,184,758
	差引	287,877	258,858	154,006	12,596	102,514	
調整勘定等	△ 8,397	△ 117,583	129,518	7,371	49,490		
教育活動資金収支差額 (B)	279,480	141,275	283,524	19,967	152,004		
施設による設備等活動資金収支	施設設備等活動資金収入計	55,844	142,180	0	405,695	42,270	
	施設設備等活動資金支出計	78,448	342,026	65,065	1,605,055	309,434	
	差引	△ 22,604	△ 199,846	△ 65,065	△ 1,199,360	△ 267,164	
	調整勘定等	△ 17,175	△ 86,336	142,180	△ 405,695	366,063	
	施設設備等活動資金収支差額	△ 39,779	△ 286,182	77,115	△ 1,605,055	98,899	
小 計	239,701	△ 144,907	360,639	△ 1,585,088	250,903		
その他の活動資金収支	その他の活動資金収入計	25,766	8,590	210,294	970,175	8,185	
	その他の活動資金支出計	12,745	29,954	128,813	33,683	1,162,410	
	差引	13,021	△ 21,364	81,481	936,492	△ 1,154,225	
	調整勘定等	509	173	285	△ 107	352	
	その他の活動資金収支差額	13,530	△ 21,191	81,766	936,385	△ 1,153,874	
支払資金の増減額	253,231	△ 166,098	442,405	△ 648,703	△ 902,971		
前年度繰越支払資金	2,327,857	2,581,089	2,414,992	2,857,397	2,208,694		
翌年度繰越支払資金	2,581,088	2,414,991	2,857,397	2,208,694	1,305,723		

2. 事業活動収支の状況

(単位:千円)

科 目		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金(ア)	1,686,759	1,637,829	1,542,916	1,551,635	1,682,825
		手数料	27,131	25,176	26,169	36,856	40,696
		寄付金(イ)	1,736	1,113	3,066	878	1,791
		経常費等補助金(ウ)	465,014	456,947	399,078	394,201	373,905
		付随事業収入	147,692	138,253	144,364	162,519	160,574
		雑収入	59,183	98,942	78,403	35,087	27,803
		教育活動収入計(エ)	2,387,515	2,358,260	2,193,996	2,181,176	2,287,593
	事業活動支出	人件費(オ)	1,471,183	1,510,489	1,449,550	1,328,779	1,366,678
		教育研究経費(カ)	597,010	570,615	554,125	651,691	722,115
		うち、減価償却	234,521	230,050	239,303	227,063	274,097
		管理経費(キ)	276,885	286,095	277,982	423,045	389,734
		うち、減価償却	21,679	22,611	22,970	22,167	21,182
		徴収不能額等	0	520	1,906	1,676	1,615
	教育活動支出計(ク)	2,345,078	2,367,719	2,283,563	2,405,191	2,480,142	
教育活動収支差額(エ-ク=ケ)		42,437	△ 9,459	△ 89,567	△ 224,015	△ 192,549	
教育活動外収支	事業収入	受取利息・配当金	6,768	6,518	5,567	3,787	4,315
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計(コ)	6,768	6,518	5,567	3,787	4,315
	事業支出	借入金等利息	2,078	1,899	1,420	950	5,966
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計(サ)	2,078	1,899	1,420	950	5,966
教育活動外収支差額(コ-サ=シ)		4,690	4,619	4,147	2,837	△ 1,652	
経常収支差額		47,127	△ 4,840	△ 85,420	△ 221,178	△ 194,201	
特別収支	事業活動収入	資産売却差額	0	0	0	0	648
		うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	60,128	158,034	2,507	407,983	42,668
		うち、施設設備寄付金(ス)	0	0	0	0	0
		うち、現物寄付(セ)	1,564	15,854	2,403	2,218	3,020
		うち、施設設備補助金(ソ)	55,844	142,180	0	405,695	39,632
	特別収入計(タ)		60,128	158,034	2,507	407,983	43,317
	事業活動支出	資産処分差額	17,433	0	5	964	70,579
		うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
		うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
その他の特別支出		133	0	736	0	17,625	
特別支出計(チ)		17,566	0	741	964	88,204	
特別収支差額(タ-チ=ツ)		42,562	158,034	1,766	407,019	△ 44,888	
基本金組入前当年度収支差額(ケ+シ+ツ:テ)		89,689	153,194	△ 83,654	185,841	△ 239,088	
基本金組入額合計(ト)		△ 22,307	△ 307,084	△ 66,321	△ 229,137	△ 240,064	
(第1号基本金組入額)		△ 21,807	△ 306,584	△ 63,821	△ 228,637	△ 239,964	
(第2号基本金組入額)		0	0				
(第3号基本金組入額)		△ 500	△ 500	△ 2,500	△ 500	△ 100	
(第4号基本金組入額)		0	0				
当年度収支差額(テ-ト=ナ)		67,382	△ 153,890	△ 149,975	△ 43,296	△ 479,152	
前年度繰越収支差額		△ 5,969,156	△ 5,892,068	△ 6,028,956	△ 6,178,931	△ 6,220,287	
基本金取崩額		9,707	17,000		1,939	2,970	
翌年度繰越収支差額		△ 5,892,067	△ 6,028,958	△ 6,178,931	△ 6,220,288	△ 6,696,469	
事業活動収入計(エ+コ+タ=ニ)		2,454,411	2,522,812	2,202,070	2,592,946	2,335,224	
事業活動支出計(ク+サ+チ=ヌ)		2,364,722	2,369,618	2,285,724	2,407,105	2,574,313	

3. 貸借対照表

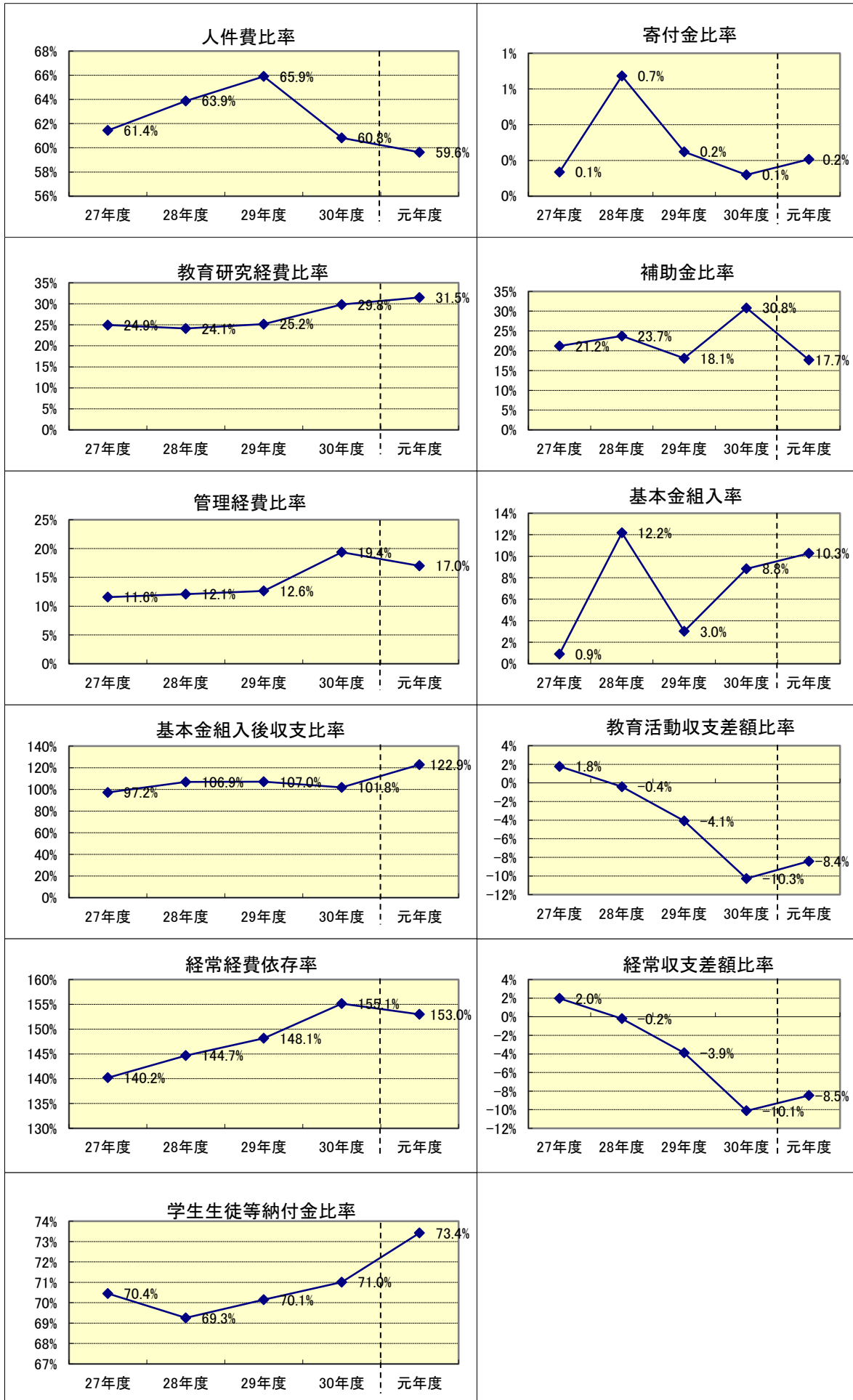
(単位:千円)

資 産 の 部					
科 目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
固 定 資 産 (a)	8,371,619	8,477,074	8,284,533	9,647,154	10,658,634
有 形 固 定 資 産	8,075,647	8,186,026	7,998,561	9,354,891	9,275,909
う ち 、 土 地	2,886,312	2,886,312	2,886,312	2,886,312	2,866,697
う ち 、 建 物	3,439,100	3,621,868	3,463,259	4,705,570	4,502,257
う ち 、 構 築 物	410,574	379,769	348,521	384,225	475,808
うち、教育研究用機器備品	215,266	167,837	118,627	234,741	266,382
特 定 資 産 (b)	273,000	273,500	276,000	276,500	276,600
そ の 他 の 固 定 資 産	22,972	17,548	9,972	15,763	1,106,125
う ち 、 収 益 事 業 元 入 金	0	0	0	0	0
う ち 、 有 価 証 券 (c)	0	0	0	0	0
流 動 資 産 (d)	2,688,174	2,634,074	2,921,987	2,668,707	1,462,987
う ち 、 現 金 預 金 (e)	2,581,089	2,414,992	2,857,397	2,208,694	1,305,723
う ち 、 有 価 証 券 (f)	0	0	0	0	0
そ の 他	107,085	219,082	64,590	460,013	157,264
合 計 (g)	11,059,793	11,111,148	11,206,520	12,315,861	12,121,621
負 債 の 部 ・ 純 資 産 の 部					
科 目	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
総 負 債 (h)	1,068,087	966,246	1,145,272	2,068,771	2,113,620
固 定 負 債 (i)	512,098	517,135	572,736	1,512,383	1,499,875
う ち 、 長 期 借 入 金	118,170	108,150	185,805	1,139,785	1,128,930
う ち 、 学 校 債	0	0	0	0	0
うち、退職給与引当金 (j)	393,928	408,985	386,931	372,598	370,945
流 動 負 債 (k)	555,988	449,111	572,536	556,388	613,745
う ち 、 短 期 借 入 金	10,020	10,020	10,020	10,020	10,020
う ち 、 前 受 金 (l)	451,412	390,113	430,164	511,663	550,385
基 本 金 (m)	15,883,774	16,173,858	16,240,179	16,467,376	16,704,471
ア 第 1 号 基 本 金	15,643,774	15,950,358	16,014,179	16,240,876	16,477,871
イ 第 2 号 基 本 金 (n)	0	0	0	0	0
ウ 第 3 号 基 本 金 (o)	53,000	53,500	56,000	56,500	56,600
エ 第 4 号 基 本 金	187,000	170,000	170,000	170,000	170,000
繰 越 収 支 差 額 (p)	▲ 5,892,068	▲ 6,028,956	▲ 6,178,931	▲ 6,220,287	▲ 6,696,469
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	▲ 5,892,068	▲ 6,028,956	▲ 6,178,931	▲ 6,220,287	▲ 6,696,469
合 計 (h)+(m)+(p)	11,059,793	11,111,148	11,206,520	12,315,860	12,121,622
減 価 償 却 額 の 累 積 額 の 合 計 額 (q)	7,548,107	7,749,472	8,008,103	8,193,374	7,980,422
基 本 金 未 組 入 額 (r)	0	0	0	791,036	791,036

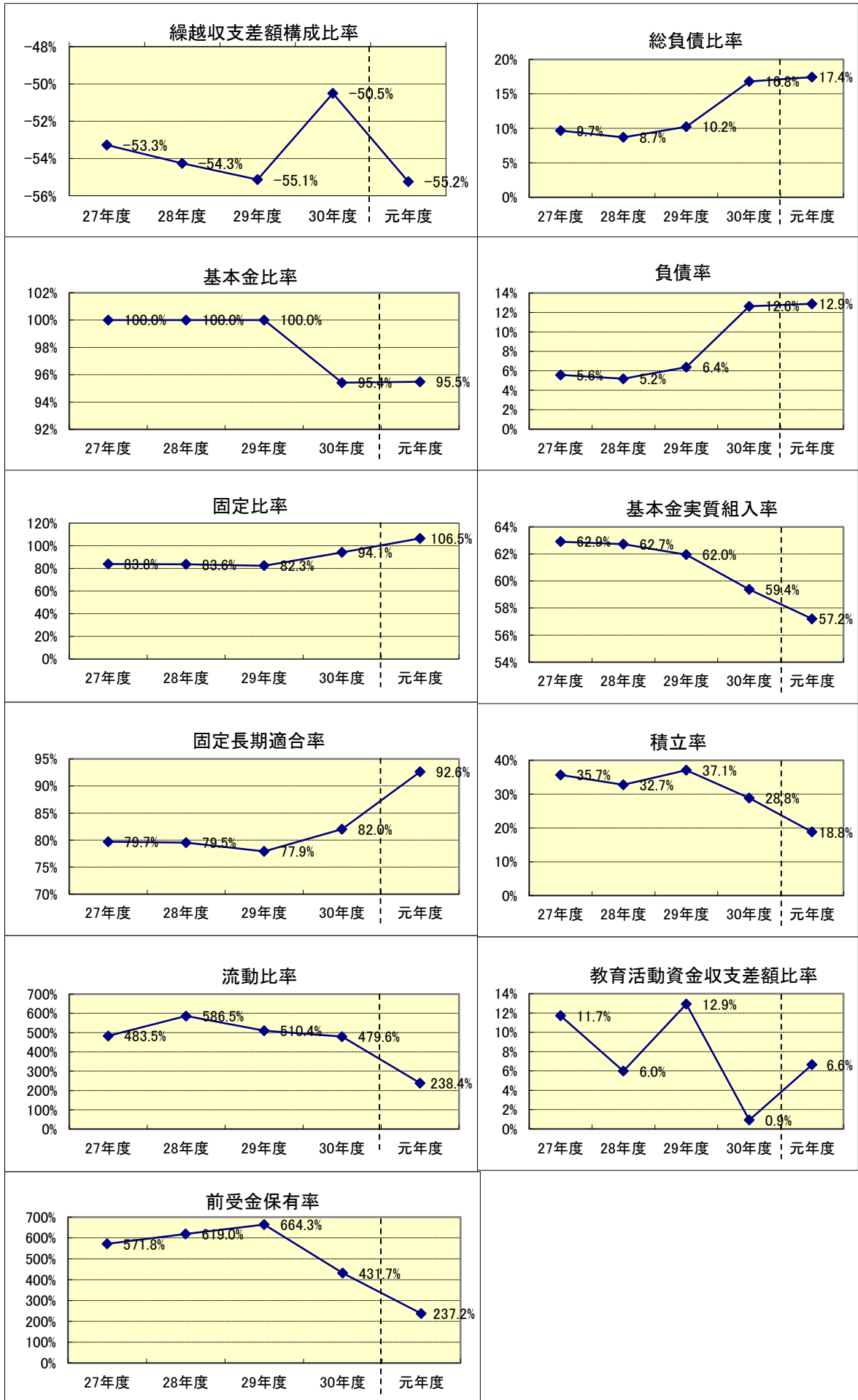
4-1. 財務比率表

分類	比 率	算 式 (×100)	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事業活動 収支 計 算 書	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(オ)}{(エ+コ)}$	61.4%	63.9%	65.9%	60.8%	59.6%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(カ)}{(エ+コ)}$	24.9%	24.1%	25.2%	29.8%	31.5%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(キ)}{(エ+コ)}$	11.6%	12.1%	12.6%	19.4%	17.0%
	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}} \frac{(ヌ)}{(ニ-ト)}$	97.2%	106.9%	107.0%	101.8%	122.9%
	経常経費依存率	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}} \frac{(ヌ)}{(ア)}$	140.2%	144.7%	148.1%	155.1%	153.0%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(ア)}{(エ+コ)}$	70.4%	69.3%	70.1%	71.0%	73.4%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \frac{(イ+ス+セ)}{(ニ)}$	0.1%	0.7%	0.2%	0.1%	0.2%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \frac{(ウ+ソ)}{(ニ)}$	21.2%	23.7%	18.1%	30.8%	17.7%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \frac{(ト)}{(ニ)}$	0.9%	12.2%	3.0%	8.8%	10.3%
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教 育 活 動 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 収 入}} \frac{(ケ)}{(エ)}$	1.8%	-0.4%	-4.1%	-10.3%	-8.4%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(ケ+シ)}{(エ+コ)}$	2.0%	-0.2%	-3.9%	-10.1%	-8.5%	
貸 借 対 照 表	繰越収支差額比率	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債 + 純 資 産}} \frac{(p)}{(h+m+p)}$	-53.3%	-54.3%	-55.1%	-50.5%	-55.2%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 繰 入 額}} \frac{(m)}{(m+r)}$	100.0%	100.0%	100.0%	95.4%	95.5%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}} \frac{(a)}{(m+p)}$	83.8%	83.6%	82.3%	94.1%	106.5%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産 + 固 定 負 債}} \frac{(a)}{(m+p+i)}$	79.7%	79.5%	77.9%	82.0%	92.6%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \frac{(d)}{(k)}$	483.5%	586.5%	510.4%	479.6%	238.4%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}} \frac{(e)}{(l)}$	571.8%	619.0%	664.3%	431.7%	237.2%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}} \frac{(h)}{(g)}$	9.7%	8.7%	10.2%	16.8%	17.4%
	負債率	$\frac{\text{総 負 債 - 前 受 金}}{\text{総 資 産}} \frac{(h-l)}{(g)}$	5.6%	5.2%	6.4%	12.6%	12.9%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}} \frac{(m+p)}{(m+r)}$	62.9%	62.7%	62.0%	59.4%	57.2%
	積立率	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}} \frac{(b+c+e+f)}{(j+n+o+q)}$	35.7%	32.7%	37.1%	28.8%	18.8%
活動区分	教育活動資金率	$\frac{\text{教 育 活 動 資 金 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 資 金 収 入 計}} \frac{(B)}{(A)}$	11.7%	6.0%	12.9%	0.9%	6.6%

4-2. 財務比率(事業活動収支計算書関係)グラフ



4-3. 財務比率(貸借対照表関係)グラフ



<令和元年度 決算概要>

令和元年度決算（財務3表）の概要は次のとおりです。

1. 貸借対照表

本表は、令和2年3月31日現在の財務状況を示しています。固定資産（土地・建物・機器備品・特定預金他）および流動資産（現金預金・未収入金他）の資産の部合計は12,122百万円で、前年度末と比べて194百万円の減少となりました。主な要因は、旧1号館取り壊しに伴う建物、構築物、教育研究用機器備品の減少によるものです。

一方、固定負債（長期借入金・退職給与引当金他）および流動負債（次年度借入返済金・未払金他）の負債の部合計は2,114百万円で、前年度末と比べて45百万円増加しました。主な要因は、前受金の増加によるものです。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部合計は10,008百万円で、前年度より239百万円減少しました。

2. 事業活動収支計算書

基本金組入前の事業活動収入計は、2,335百万円となり、予算と比べて3百万円下回りました。一方、事業活動支出計は2,574百万円となり、予算と比べて358百万円下回りました。基本金組入前当年度収支差額は、予算では600百万円の赤字だったのに対し、決算では239百万円の赤字となりました。その要因は、経費支出の削減によるものです。

経常収支差額においては194百万円の赤字で、前年と比べて27百万円赤字が減少しました。大きな減少とならなかった主な要因は、旧1号館跡地を整備したことで、新学部設置により減価償却費が増加した為です。

なお、令和2年度の大学の入学者数については、引き続き定員を上回る状況となっており、今後は収支の改善が見込まれます。

3. （活動区分）資金収支計算書

活動区分資金収支は、活動区分ごとの諸活動に対応する全ての収入・支出の内容を示しています。当年度の「教育活動資金収支差額」は、152百万円、「施設整備等活動資金収支差額」は99百万円となりました。また、「その他の活動資金収支差額」は▲1,154百万円ですが、主な要因は子会社への長期貸付金によるものです。これらを併せた当年度支払資金の増減額の合計は▲903百万円となりました。以上により、前年度繰越支払資金2,209百万円に当年度増減額▲903百万円を加えた翌年度繰越支払資金は1,306百万円となりました。

＜経営改革計画（2018年度～2020年度）の進捗状況＞

（1）学生募集に係る取組

①学生募集対策

近年の志願・入学状況をもとに訪問対象校及び訪問時期を精査した結果、令和2年度入試（令和元年度実施）では、志願者総数の対前年比 105.5%、入学定員充足率 113.8%となり、2年続けて入学定員を充足することができた。

②入試制度改革

A0 入試に関して、志願する学部・学科の特性及びエントリー者の取り組みやすさという2つの観点から見直しを行った結果、令和2年度入試（令和元年度実施）では志願者数が前年比 135.8%となった。

（2）中途退学者数の減少に係る取組

前年に割合の高かった学科については前年並みあるいは減少傾向にあり、学生指導に取り組んだ成果であると評価する。一方で、前年より「不本意入学・進路変更」が増加した学科については、その要因と対応策を検討する必要がある。

（3）SD・FD や教職協働に係る取組

①教員育成システムに関する調査・研究について

メンター制度の導入、ティーチングポートフォリオの運用を研究の成果として実現できた。

②学生募集活動の改善への、IR データの活用

IR データを学生募集改善に活用するために、入学者の学修状況の調査・分析を FD・SD 研修会で報告している。また、高校訪問や高校内ガイダンスへの参加等を戦略的に進めた結果、従来出願の少なかった高等学校等からの志願者を得た。

（4）経費削減や収入増に係る取組

「武田学園教育振興寄附金」を創設し、法人依頼先への訪問活動を実施した。

（5）その他の取組

旧校舎解体と跡地整備を予定通り完了した。

＜本学園の経営状況について＞

経常収支差額については、平成28年度以降、マイナスの状況が続いている。特に、平成

30年度ならびに令和元年度にそれぞれ約200百万円のマイナスとなった。これらは、これまで大学の定員割れが続いていたことが、大きな要因となっていた。しかしながら、令和元年度に断行した男女共学ならびに教育学部新設の改革により、令和元年度および2年度入学生は、入学定員を上回る事となった。このため、授業料等の収入増加により今年度以降は、黒字転換の予定である。

また、令和3年度は、中期経営計画の更新年度にあたるため、武田学園経営強化委員会の委員を中心に、より経営強化を旨とした経営計画書（第2次文教マスタープラン）の策定に現在取り組んでいる。